

チーム医療をしつかり学んでいます

平成27年度初期研修医 玉岡滉平医師

昨年4月から城山病院で初期研修を行っている玉岡医師。近畿大学医学部出身で臨床研修を母校の大学病院で行うという選択枝もありましたが、当院を研修病院に選びました。来月、臨床研修能力評価試験を受ける玉岡医師に話を聞きました。



指導医、専門医に学ぶ 幸せ

城山病院で研修を受けようと思ったのは、同じ大学の先輩から「城山病院は指導医や上級医が丁寧サポートしてくれ、学ぶ機会が非常に多い」という助言をもらったことです。1年目は内科系、外科系、救急、麻酔科などで研修しましたが、どの科にも指導医、専門医がおられ、豊富な経験を持ち、懐の深い先生方にたくさん学びの機会を作って頂きました。現在は消化器内科で内視鏡の研修を積んでいます。指導してくださる副院長で日本消化器病学会指導医、日本消化器内視鏡学会指導医など多数の資格をお持ちの東野先生は「この病院はミラクルだ」とおっしゃいます。国の医療費抑制等でも民間病院の経営は厳しくなる中、

城山病院は患者さんから絶大な応援を受け、研修機器もほとんど揃えることができるところからだと思います。大学病院には研修センターがありませんが、民間病院でこれほど後進を育うという気概溢れる病院は珍しいかもしれない。手技処置などの技術だけでなく、地域に求められ、貢献する医療とはどういうことなのかを知りました。

先輩たちの自主性に 刺激を受けて

とは言っても最初は人見知りの私には試験の連続でした。上級医についての研修はともかく、救急搬送された患者さんに何もしない、院内で患者さんが急変した時に館内に響くハリーコール(Hurry Call)にもとつぎに動けない。上級医から「自分から学ぼう」という姿勢がない」と叱咤されて反省し、プロフェッショナルであるとはどういうことなのか？患者さんと向きあう姿勢とは何かをを一意専心。先生方は驚く

ほど自ら行動され、チーム医療を進める上でコメディカルスタッフと自然に連携されています。また、普段から積極的に専門外の先生方と意見交換され、常に謙虚に教えを乞う姿には感動さえ覚えました。そんな先生方の姿勢に刺激を受け、自分のできる範囲で積極的に動けるようになりました。

こんな医師を目指したい

初めて入院患者さんを最初から最後まで担当しました。かかりつけ医の先生と連絡を取り、退院後のこともソーシャルワーカーと相談し、患者さんから「ありがとう」と言われました。医師一人では完璧な治療はできません。様々なスタッフと繋がりの、的確な判断を下せる医師になりたいと思っています。

当院の臨床研修 について

城山病院副院長
東野 健医師



各学年2名しか指導できません。しかし、一人一人の研修医が受ける指導や、受け持ち患者数については大学病院よりも多くの機会があると思われ。特に私が指導する消化器内科については、上下消化管内視鏡の指導件数とその質が高いと負っています。わずか2ヵ月、消化器内科に研修されるだけで、ルーチンの上部消化管内視鏡ができるようになっていきます。他の科についても実技、実践の医療を中心に研修指導されています。



内視鏡の訓練を行う玉岡医師